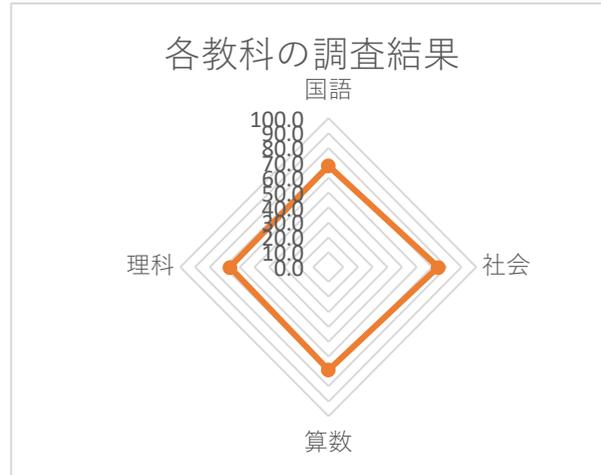


令和2年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果

◆各教科の調査結果（正答率：％）

教科	学年
国語	67.9
社会	74.3
算数	69.0
理科	66.5



◆観点別の調査結果（正答率：％）

教科	思考・判断・表現	技能	知識・理解	読む
国語	77.0	52.9	59.1	79.3
社会	71.5	77.0	72.4	
算数	59.8	77.8	62.3	
理科	60.5	44.8	77.8	

【授業改善のポイント】

・国語科は、「書く」ことに対する学年平均が52.9%であった。文章を要約したり、文章全体を読んで自分の考えを書いたりする活動を継続的に行い、書くことに対する苦手意識を減らしていけるようにする。課題や資料に向き合う時間を確保し、情報の整理や特徴を読み取る力を身に付け、読み取ったことを表現する活動を取り入れていくことで表現力の向上を図る。

・算数では、「思考・判断・表現」が59.8%、「知識・理解」が62.2%であった。表や図からわかることを読み取る活動、問題を読んで数直線に表す活動等を継続的に行い、何を求めればよいのかを理解できるようにする。また、ペアやグループでの話し合い活動を通して、どのように考えたか解き方を説明したり、複数の考え方で解いたりし、多面的に捉えたり、表現したりできるようにする。単位変換や単位を用いる練習問題に取り組み、どの場面でどの単位を用いるか確実に身に付けられるようにする。

・社会では、思考・判断・表現が71.5%、知識・理解が72.4%であった。情報を読み取り、整理していく力を身に付けていくために、1つの資料だけでなく、複数の資料から情報を読み取ることができるように、単元導入の学習問題を立てる場面や、問題・課題解決の調べる場面で指導をしていく。

・理科では、技能の正答率が44.8%であった理由として、学習中に自分で器具を操作して観察・実験を行った児童とそうでない児童がいることが考えられる。そこで、今後は学習中に児童全員が必ず一回は観察・実験の器具を自分で操作する機会を設定する。また、実験方法を児童一人一人が計画する機会を必ずとり、器具を使う目的を、経験を通して理解できるようにする。

【家庭・地域への働きかけ】

・意識調査によると、半数以上の児童が、自分の住む地域や社会をよくしたいと思っているので、保護者や地域の方にインタビューをしたり、実際に行ってみたり、地域のことを調べる学習を充実させていくようにする。
 ・ベーシックドリルの個人表を作成し、保護者に児童の学習状況の把握と理解を得る。
 ・毎日の読書量を増やしていけるよう、自主学習で本を活用した学習を設定することで、読書量を増やすとともに、自主学習の充実を図る。